

実施要領 様式11(第13条関係)
 【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成21年12月10日

【評価実施概要】

事業所番号	0272501156
法人名	社会福祉法人 東北赤松福祉会
事業所名	グループホームぽぷら
所在地	青森県上北郡東北町字往来ノ下33番地3 (電 話)0175-65-3117
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年8月27日

【情報提供票より】(平成21年6月5日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14人, 非常勤 1人, 常勤換算	13.66人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000～16,500 円	その他の経費(月額)	光熱費 6,000 円他
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(6月5日現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	5 名	要介護4	6 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 77 歳	最高 98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立七戸病院 ちびき病院 吉田内科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは広々とした畑や樹木に囲まれ、のんびりとできる環境の中に立地し、「生きる喜び、理解できる喜び、お手伝いできる喜び」というホームの理念を基に、各ユニット独自の理念を掲げるなど、理念の実践に向けて取り組んでいる。

研修委員会を設け、職員の育成に力を入れており、内部研修の年間計画を作成しているほか、外部研修への参加も積極的に促している。また、職員の力量等に合わせ公平に参加出来るように配慮しており、受講後は報告書を作成し、伝達講習を行っている。更に、法人が積極的な資格取得の支援をしており、個々に介護支援専門員等の目標を持って努力している。

運営推進会議では、利用者の家族、町内会、民生委員からの意見や要望を基に話し合い、行事や災害時における協力が得られるなど、交流が深まっている。また、家族会があり、家族の要望や意見交換できる機会を設けている。

家庭的な雰囲気の中で、利用者のペースを大切にし、職員は利用者と一緒に、調理や買物、掃除などを行い、楽しみながら生活している。

ホールには、ソファや畳の小上がりがあり、利用者が思い思いの場所で過ごせるよう配慮しているほか、浴衣や手作りの灯籠等を飾り、利用者が四季を感じることができるよう工夫している。また、職員の声のトーンや物音、TV、音楽などの音量は適切で、室内の明るさや換気等にも十分配慮している。

【特に改善が求められる点】

権利擁護について、内部・外部研修等を行い、全職員が制度に関する関心と理解を深めることに期待したい。

やむを得ず拘束を行う場合は、その理由、方法、期間、観察経過、家族の同意などについて記録を残す体制を整えることに期待したい。

年に数回程度、利用者の栄養摂取状況等について、栄養士等の専門家から、指導や助言を得られる体制を整えることに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を職員会議で協議し、今後のケアサービスに生かしている。また、運営推進会議に報告し、家族や自治体等から広く意見や助言を得て検討している。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を作成する際は、職員会議の中での話し合いを基に、管理者がまとめるなど、全職員で取り組んでおり、今後に活かす気づきや日々のケアの確認を検討する良い機会と捉え、前向きに取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を2ヵ月毎に開催しており、民生委員や家族会、行政担当職員等が参加し、率直な意見を得ている。 会議では、活動報告や委員会報告、自己・外部評価結果を報告し、出された意見等はホームのサービスに反映させている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 家族が来所した際には笑顔で迎え、何でも話せる雰囲気を中心掛けている。また、家族会や運営推進会議等で要望等を把握するなど、意見交換する機会を確保している。更に、内・外苦情受付窓口を明示し、家族の意見や要望をケアサービスの向上に繋げる取り組みを行っている。 毎月の便りで利用者の暮らしぶりや健康状態等を報告しているほか、体調変化時には随時電話等で連絡し家族と連携を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは地域との繋がりを大切に、小・中学校の行事や奉仕活動に参加したり、町の文化祭に利用者の作品を出展するなど、様々な取り組みを行っている。 また、地域の集会場での認知症予防教室に、管理者が講師として参加し認知症の理解や普及活動に努めている。ボランティアの来所が増えており、受け入れの際には、プライバシー保護について十分説明し理解を得ている。

【各領域の取組状況】

領 域	取組み状況
I 理念に基づく運営	「生きる喜び、理解できる喜び、お手伝いできる喜び」のホームの理念を基に、各ユニットで話し合い、独自の理念を掲げるなど、理念の実践に向けて取り組んでいる。 研修委員会を設け、職員の育成に力を入れており、内部研修の年間計画を作成しているほか、外部研修への参加も積極的に促している。また、職員の力量等に合わせて公平に参加出来るように配慮しており、受講後は報告書を作成し、伝達講習を行っている。更に、法人が積極的な資格取得の支援をしており、個々に介護支援専門員等の目標を持って努力している。職員のスーパーバイザーを法人の所長等が行っている。
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	ホーム見学や相談の段階から、利用者や家族の希望や思いを把握し、双方の意向に沿ったサービス開始となるよう支援している。また、利用者の生活歴等を情報収集し、これまでの生活と変わらないよう、利用者の視点に立った支援を心掛けている。 職員は、日々の関わりの中から、利用者を理解しようと努めており、利用者の得意な事を職員が教えてもらったり、調理や後片付けと一緒にするなど、支え合う関係を築いている。
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	センター方式を活用してアセスメントを行い、利用者個々の暮らし方や生活リズムを把握した上で、全職員で気づきや意見を出し合い、介護計画を作成している。また、その人らしく暮らし続けられるよう、家族や関係者からも意見を聞き、利用者本位の個別具体的な計画となっている。 重度化及び看取りに関する指針を明確にしており、重度化に対応していく為の設備やケア内容について検討を重ねている。また、家族と話し合い、医師の方針を確認するなど、利用者や家族、看護師、職員の意思統一に取り組んでいる。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	職員は穏やかな声でゆったりと対応しており、人生の先輩として適切な呼び掛けや言葉遣いを行っている。また、介助時の羞恥心等にも十分に配慮している。更に、個人情報保護法について理解しており、利用者の個人情報に関する書類は名前を表示せず、利用者や来訪者の目の付かない所に保管している。 利用者一人ひとりの生活歴や要望・力量を把握し、日々の生活の中から、楽しみごと等の支援に努めている。また、畑仕事や掃除、買物、調理など、利用者が経験を発揮できる場面を作り、役割や楽しみごととして支援している。

評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者・職員は地域密着型サービスの役割を十分理解した上で、「生きる喜び、理解できる喜び、お手伝いできる喜び」というホームの理念を掲げ、地域を大切に、その人らしく暮らし続けられるような支援を心掛けている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年度始めに、ホームの理念を踏まえて各ユニットの理念を作成するなど、全職員で共有している。また、ミーティング等で理念を確認し、ホーム内に掲示するなど、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	畑仕事の方や保育園の子供達が立ち寄ったり、野菜の収穫やふき取り、正月のしめ縄作り等を近所の人達と行ったり、学校行事や奉仕活動への参加や町の文化祭に利用者の作品を出展するなど、地域との繋がりを大切にし、交流を深める様々な取り組みを行っている。また、地域の集会場での認知症予防教室に、管理者が講師として参加し、認知症の理解や普及活動に努めている。ボランティアの来所が増えており、受け入れの際には、プライバシー保護について十分説明し理解を得ている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を作成する際は、評価のねらいを学習しながら、職員会議の中で話し合い、管理者がまとめており、全職員で取り組んでいる。また、職員は評価を行うことは今後に活かす気づきや、日々のケアの確認や検討を行う良い機会と捉え、職員の育成にも繋げている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヵ月毎に開催しており、民生委員や家族会、行政担当職員等が参加し、率直な意見を得ている。会議では、活動報告や委員会報告、自己・外部評価結果を報告し、出された意見等はホームのサービスに反映させている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームや法人の広報紙のほか、パンフレットを配布しているほか、運営推進委員会に行政職員が参加しており、自己・外部評価結果について報告している。また、職員の意見や質問等を相談するなど、連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部・内部研修を通して、日常生活自立支援事業に関して学習しており、必要に応じて、情報提供を行うなど体制を整えているが、全職員が制度を理解するまでには至っていない。	○	内部・外部研修等を行い、全職員が制度に関する関心と理解を深めることに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修を通して高齢者虐待防止法に関する理解を深めており、管理者は職員と利用者の日々の関わり方や、記録物等を観察し、虐待を未然に防ぐよう努めている。また、高齢者虐待を発見した場合の対応についての取り決めがあり、全職員が理解している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を基にホームの方針や取り組みの状況を説明し、同意を得ている。また、疑問や不安等を聞き出しているほか、契約改訂時には家族会等で説明を行っている。退居の際も十分に説明を行うほか、利用者や家族が不安を抱かないよう、情報提供に心掛けている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「みんなの家」便りを毎月発行し、ホームでの暮らしぶりや、利用者個々の健康状態等を報告している。また、体調変化時には随時電話等で連絡し、家族と連携を図っている。利用者の金銭管理状況は、面会時等に出納帳や領収書を基に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した際には笑顔で迎え、何でも話せる雰囲気心を心掛けている。また、家族会や運営推進会議等で要望を把握するなど、意見交換する機会を確保している。更に、内・外苦情受付窓口を明示し、家族の意見や要望をケアサービスの向上に繋げる取り組みを行っている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者、職員は異動による利用者への影響等を理解しており、「なじみの関係」の繋がりを守りながら、ユニット間での人事異動を行っている。職員は全ユニットの利用者の状況を共有しており、異動の際には職員間で詳細な引継ぎを行っているほか、利用者の状態に合わせて十分に説明を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会を設け、職員の育成に力を入れており、内部研修の年間計画を作成しているほか、外部研修への参加も積極的に促している。また、職員の力量等に合わせ、公平に参加出来るように配慮しており、受講後は報告書を作成し、伝達講習を行っている。更に、法人が積極的な資格取得の支援をしており、個々に介護支援専門員等の目標を持って努力している。職員のスーパーバイザーを法人の所長等が行っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や認知症実践者研修、町内施設交流会などに参加し、学習会や意見交換を行う場を設け、日々のサービスの向上や職員育成に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学や相談の段階から、利用者や家族の希望や思いを把握し、双方の意向に沿ったサービス開始となるよう支援している。また、利用者の生活歴等の情報収集し、これまでの生活と急に変わらないよう、利用者の視点に立った支援を心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日々の関わりの中から、利用者を理解しようと努めており、利用者の得意な事を職員が教えてもらったり、調理や後片付けを一緒にするなど、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いを引き出すように接しているほか、家族や親戚から生活歴等の情報収集を行い、利用者の意向の把握に努めている。十分把握できない際は、利用者の日々の様子を観察し、職員間の気づきを話し合うなど、本人の視点に立った理解に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用してアセスメントを行い、利用者個々の暮らし方や生活リズムを把握した上で、全職員で気づきや意見を出し合い、介護計画を作成している。また、その人らしく暮らし続けられるよう、家族や関係者からも意見を聞き、利用者本位の個別具体的な計画となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画には実施期間を明示しており、見直しは3ヶ月を目安としている。また、要望や状態変化があった場合は、随時見直しを行っている。見直しを行う際には、利用者や家族、担当職員、関係職員により再アセスメントを行い、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整えており、常勤の看護師を配置している。また、冬期や農繁期等、必要な時に適切な介護が受けられるよう短期入所を受け入れている。更に、介護タクシーを利用した外出や受診支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族から受診希望医療機関を確認し、これまでのかかりつけ医や、協力医療機関の受診を支援している。また、ホームに看護師を配置し、体調変化時等に対応しており、いつでも相談できる体制が整っているほか、受診結果等は家族に報告し情報の共有を行っている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化及び看取りに関する指針を明確にしており、重度化に対応していく為の設備やケア内容について検討を重ねている。また、家族と話し合い、医師の方針を確認するなど、利用者や家族、看護師、職員の意思統一に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は穏やかな声でゆったりと対応しており、人生の先輩として適切な呼び掛けや言葉遣いを行っている。また、介助時の羞恥心等にも十分に配慮している。更に、個人情報保護法について理解しており、利用者の個人情報に関する書類は名前を表示せず、利用者や来訪者の目に付かない所に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の要望を大切に、その日の希望や身体・精神状況に合わせた柔軟な支援を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みや苦手な物に配慮しながら、自家菜園で採れた旬の物を取り入れている。また、状況に応じて、一緒にメニューを考えたり、調理、後片づけを利用者と職員が一緒に行っている。職員は同じテーブルで食事を取り、料理の出来具合等の会話をしながら、和やかな食事を楽しんでいる。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴習慣や好みは入居時に利用者や家族から情報収集している。入浴は週2回となっているが、利用者の希望や状態に応じて臨機応変に対応している。また、入浴に対する羞恥心や負担感、安全面にも十分配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や要望・力量を把握し、日々の生活の中から、楽しみごと等の把握に努めている。また、畑仕事や掃除、買物、調理など、利用者が経験を発揮できる場面を作り、役割や楽しみごととして支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買物、ハウス農場に出掛けているほか、年間行事計画で花見や外食に出掛ける際は、家族にも参加を呼びかけるなどの支援をしている。外出の際は、ホームの車を利用し、個々の身体状況に合わせて移動方法や時間に配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部・外部研修を通して身体拘束について学習し、共通の理解を図っており、身体拘束を行わないケアを実践しているが、医療的理由でやむを得ず拘束を行う場合に備え、その理由、方法、期間、観察経過、家族の同意などについて記録を残す体制を整えるまでには至っていない。	○	やむを得ず拘束を行う場合は、その理由、方法、期間、観察経過、家族の同意などについての記録を残す体制を整えることに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠せず、自由に出入りできるようにしている。また、やむを得ず施錠が必要な場合は、家族の同意を得ている。職員は利用者の外出傾向を察知できるよう見守りを行い、外出の際は、付き添っている。無断外出時に備え、併設施設や近隣住民の協力が得られる体制が整っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	定期的に消防署の協力を得て、日中・夜間を想定した避難訓練を行っており、訓練には利用者も参加している。また、救命救急法、避難誘導法の指導を受けている。運営推進会議を通じ、災害時に住民の協力を得られる体制が整っているほか、食料や飲料水、衛生材料を備えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病や腎疾患の利用者の場合は、細かく配慮するほか、個々の食事・水分摂取量を記録し、体重変化等の状態を把握している。また、献立は自家菜園の旬の野菜を使うなど、バランスの良い食事になっているが、利用者の栄養摂取状況等について、栄養士等の専門家から指導や助言を得られる体制を整えるまでには至っていない。	○	年に数回程度、利用者の栄養摂取状況等について、栄養士等の専門家から、指導や助言を得られる体制を整えることに期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防・対応マニュアルを作成しており、外部研修や保健所の講習に参加し、最新の情報を収集した上で、必要に応じて見直しを行っている。また、家族等に情報を周知し、予防に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、ソファや畳の小上がりがあり、利用者が思い思いの場所で過ごせるよう配慮しているほか、浴衣や手作りの灯籠等を飾り、利用者が四季を感じることができるよう工夫している。また、職員の声のトーンや物音、テレビ、音楽などの音量は適切で、室内の明るさや換気等にも十分配慮している。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、長年使っている茶碗や湯飲み、時計、家族の写真など、馴染みの物を持ち込んでいる。また、個々の認知症の程度に合わせて、職員と一緒に居心地の良い居室作りを行っている。		

※ は、重点項目。